

各文構造解説

この冊子の使い方

1つの文について、【英文】→【構造】→【解説】→【語句】の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。
この時点で理解できなければ、「解答解説書」の日本語訳で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して確認する。

凡例および注意点

凡例：

① = 大問番号 ❶ = 段落番号 ❶ = 文番号

【構造】 = 【構造】

主 = 主語 動 = 動詞 目 = 目的語 補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞 関代 = 関係代名詞 過分 = 過去分詞 など

「 」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[] / { } / [[]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

*❶ = 【解説】 とくに注意を要する箇所の指摘および解説

【暗例】 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする

() = 省略可、あるいは補足・別表現

[] = 直前の語句との入れ換え可

< > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

【語句】 = 【語句】

[|] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語 など

注意点：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

各文構造解説

1

1 ① Fostering an environment where foreign nationals can carry out their daily lives as a part of society without worry is becoming a growing challenge for Japan.

構造 **主**^{*1}[Fostering **目**{an environment「環境を育むこと」 **関副**where **主**foreign nationals **動**can carry out **目**their daily lives「外国人が日々の生活を遂行できる」 **副**^{*2}as a part of society「社会の一員として」 **副**without worry}]「心配なく」 **動**is becoming「なりつつある」 **補・名**^{*3}[a growing challenge for Japan].「日本にとって育ちつつある課題に」

*1：主語は動名詞 Fostering「育むこと」から副詞句 without worry「心配なく」まで。Fosteringの目的語 an environmentを、関係副詞 where以降 without worryまでの節が修飾している。関係副詞とは、時や場所などをイメージさせる名詞を後ろから節で修飾するときに使われる、whenやwhereなどの副詞のこと。このときの中心となる名詞（ここではan environment）を〈先行詞〉という。先行詞を中心とした1つの名詞（節）のまとまりとして理解すること。

*2：〈前置詞＋名詞〉は、原則として副詞句の意味のまとまりと考えるとよい。as a part of societyとwithout worryはどちらも副詞句。文末のfor Japanは名詞 challengeを修飾していると考えた方がわかりやすいので、形容詞句と判断してもよい。要するに、その語句が何を修飾しているかを正しく把握することが大切。「名詞を修飾するものは形容詞、それ以外を修飾するものはすべて副詞」という原則を覚えておくこと。なお、前置詞に続く名詞を〈前置詞の目的語〉という。

*3：補語となる名詞（句）。be動詞と状態を表す一般動詞の一部は補語（名詞か形容詞）をとることができ、このとき、内容的に〈主語＝補語〉が成立する。このときの補語を〈主格補語〉という。

語句 foster [fɔːstər | フォースタ] **動**「育む」、environment [envaɪənmənt | エンヴァイヤランメント] **名**「環境」、foreign national [fɔːrən nəʃənl | フォーリン ナショナル]「外国籍の人、外国人」、carry out「遂行する」、daily life [deɪli laɪf | デイリ ライフ]「日々の生活」、society [səʊʃiəti | ソサイエティ] **名**「社会」、without worry「心配なく、安心して」、challenge [tʃælɪndʒ | チャレンジ] **名**「課題、困難」

2 An important part of realizing this goal is raising the Japanese language proficiency of foreign residents.

構造 **主**[An important part of realizing this goal「この目標を実現することの重要な部分は」 **動**^{*1}is **補・名**[raising「上げることである」 **目**{the Japanese language proficiency of foreign residents}].「外国人居住者の日本語の技能を」

*1：〈be動詞＋ing形〉で、現在進行形か〈be動詞＋動名詞〉の可能性があるが、ここでは後者。判断根拠は文脈による。

語句 realize [riːəlaɪz | リーアライズ] **動**「実現する」、raise [reɪz | レイズ] **動**「上げる、取り上げる」、proficiency [prəʃɪjənsi | プロフィシェンシ] **名**「技能、能力」、resident [rɛzɪdənt | レズィデント] **名**「居住者」

2 ① According to the Ministry of Justice, there were 2.56 million foreign nationals residing in Japan in 2017.

構造 **副**[^{*1}According to the Ministry of Justice],「法務省によ

ると」 **副**^{*2}there **動**were **主**2.56 million foreign nationals **現分**^{*3}residing **副**in Japan **副**in 2017.「2017年、日本には、256万人の居住している外国人がいた」

*1：複数の語で前置詞の役割をする句を〈前置詞句〉という。ここではaccording toが前置詞句で、続く名詞 the Ministry of Justiceがその目的語となる。前置詞句は、他にもdue to～「～の理由で」、because of～「～が原因で」、in front of～「～の前で」など、数多い。

*2：〈there is/are構文〉は動詞の後に主語がくる倒置構文で、初出の情報を述べるときに使う。主語（必ず名詞）の後に分詞や副詞句が続くことが多い。thereはふつう場所を表す副詞で「そこ」の意味だが、この構文においてはとくに意味を持たない。

*3：名詞 2.56 million foreign nationalsを後ろから修飾する（〈後置修飾〉という）現在分詞。名詞を修飾する形容詞用法。

語句 according [əkəʊˈrɪdɪŋ | アコーディング] to ～ **前**「～によると」、ministry [mɪnɪstri | ミニストウリ] **名**「省庁」、justice [dʒʌstɪs | ジャスティス] **名**「正義」、million [mɪljən | ミリヤン] **名**「100万」、reside [rɪzaɪd | リザイド] **動**「居住する」

2 As that number continues to grow each year, there have been some cases of trouble in schools and workplaces where foreign residents have been unable to become part of the local community due to a lack of understanding of the Japanese language or other communication breakdowns.

構造 **副**^{*1}[接As **主**that number **動**^{*2}continues to grow **副**each year],「その数字が年々成長し続けるにつれて」 **副**there **動**have been **主**[some cases of trouble in schools and workplaces「学校や職場でいくつかのトラブルの事例がある」 **関副**where **主**foreign residents **動**have been unable to become **補・名**part of the local community]「外国人居住者が地元の共同体の一部になれていない」 **副**[前^{*4}due to **目**a lack of understanding of the Japanese language or other communication breakdowns].「日本語の理解不足、あるいは他のコミュニケーション途絶が理由で」

*1：接続詞Asに導かれる副詞節で、コンマ以降の主節に対する従属節。接続詞asの訳には「～につれて、～のとき、～ので」などがあるが、文脈的に違和感のないものを選ぶばよい。

*2：動詞はcontinue、to growはその動詞の目的語となるto不定詞の名詞的用法。ただ、continues to grow「成長し続ける」という動詞の意味のまとまりで解釈するのが実践的で、本書ではそのようにまとめるようにしている。助動詞や副詞notなども同様に、動詞のまとまりの一部として扱う。

*3：関係副詞のwhereで、先行詞はsome cases (of trouble)「いくつかの（トラブルの）事例」。whereは〈場所〉をイメージする非常に多くのものを先行詞にでき、例えば〈時〉を表すperiod「時代」やtimes「時節」でさえ先行詞になることがある。**暗例**We had times where we bothered each other.「私たちには互いに迷惑をかけた頃があった。」

語句 be unable to do「～できない」、local [ləʊkl | ロウクウ] **形**「地元の」、community [kəmjʊːnəti | コミュニティ] **名**「コミュニティ、共同体」、due [dúː | ドウー] to ～ **前**「～が原因で」、lack [læk | ラク] **名**「不足」、other [ʌðər | アダ] **形**「他の」、breakdown [brɛkdaʊn | ブレイクダウン] **名**「故障、機能不全」

3 ① But is the current Japanese language education system for foreign residents meeting the growing demand?

構造 **接**But「しかし」 **動**^{*1}is **主**{the current Japanese language education system for foreign residents} meeting「外国人居住者のための現在の日本語教育システムは合致しつつあるのだろうか」 **目**the growing demand?「成長しつつある需要に」
*1：be動詞を含む現在進行形の疑問文。長い主語に注意。単純化するとIs the system meeting the demand?「そのシステムは需要を満たしつつあるだろうか。」となる。

語句 current [kʌːrənt | カーレント] **形**「現在の」、education system [edʒʊkɛɪʃən sɪstəm | エヂュケイション システム]「教育システム」、meet the demand [dɪmɛnd | デイマンド]「需要を満たす」

4 ① A survey carried out by the Agency for Cultural Affairs in fiscal 2016 found that roughly 220,000 foreign nationals were learning Japanese, with the figure having grown by 90,000 over a five-year period.

構造 **主**[A survey **過分**^{*1}carried out **副**by the Agency for Cultural Affairs **副**in fiscal 2016]「2016（会計）年度に文化庁によって実施された調査は」 **動**found「わかった」 **目**^{*2}[接that **主**roughly 220,000 foreign nationals「概算で22万の外国人が」 **動**were learning **目**Japanese,「日本語を学んでいた」 **分構**^{*3}with the figure「数字を伴って」 **現分**having grown **副**by 90,000「9万人成長した」 **副**over a five-year period].「5年にわたって」

*1：名詞A surveyを後置修飾する過去分詞の形容詞用法。
*2：動詞foundの目的語（必ず名詞）となるthat節。平叙文（ピリオドで終わる文）の語順の節の冒頭に接続詞thatをつけることで、「～すること」の意味の名詞節になる。**暗例**The earth is round.「地球は丸い。（平叙文）」→that the earth is round「地球は丸いということ（名詞節）」

*3：現在分詞や過去分詞は、名詞を修飾する場合は形容詞用法、名詞以外を修飾する場合は副詞用法となるが、この副詞用法を〈分詞構文〉と呼ぶことがある。分詞構文とは、従属する副詞節において、主節と同じ主語と接続詞を省略し、現在分詞形にした動詞から始める表現のこと。例えば、As he didn't know what to say, he remained silent.「彼は何を言うべきかわからなかったので黙っていた。」という文においては、コンマの前が従属節かつ〈理由〉を表す副詞節。この従属節において、主節と同じ主語のheと接続詞Asを省略し、didn't knowを現在分詞のnot knowingに直すと、Not knowing what to say, he remained silent.「（訳は同じ）」という分詞構文の文となる。さて、ここは分詞構文の応用で、〈独立分詞構文〉の〈付帯状況〉と呼ばれるもの。独立分詞構文とは、主節とは主語が異なる分詞構文のことで、基本的に分詞が導く従属節の前に〈意味上の主語〉を置く。あまり使われない堅い文語表現なので、ここでは具体例は割愛する。独立分詞構文の付帯状況はよく使われる。直前に述べられた動作や状態に並行して、主節とは異なる主語の動作をwithを伴って追加（付帯）する表現で、「～して、～しながら」と訳せる。ここでは、主節と異なる主語the figureに、現在完了形have grownを現在分詞形にしたものが続く構造。**暗例**He was smiling, with his puppy sleeping in his arms.「彼は、眠っている子犬を腕に抱きながら微笑んでいた。」付帯状況で大切なこ

大問 **1** 段落 **3** 文 **①**
段落 **4** 文 **①～③**
段落 **5** 文 **①～②**

とは、意味上の主語（his puppy）と、動作（sleeping）の関係が能動か受動かを見極め。ここでは能動関係なので現在分詞になっている。

語句 survey [sərveɪ | サーヴェイ] **名**「調査」、the Agency for Cultural Affairs [eɪdʒənsi - kʌltʃərəl əfɛərz | エイチェンスイ - カウチュラウ アフェアズ]「文化庁」、fiscal [fɪskəl | フィスカウ] **形**「会計の、（会計）年度の（※日本では4月から翌年3月までで、学校年度と同じ）」、roughly [rʌfli | ラフリ] **副**「ざっと、およそ」、figure [fɪgjər | フィギヤ] **名**「数字、姿」、period [pɪəriəd | ピアリアド] **名**「期間」

2 However, of the some 38,000 Japanese instructors across the country, 60 percent were found to be volunteers.

構造 **副**However,「しかし」 **副**^{*1}[of the some 38,000 Japanese instructors「およそ3万8,000の日本語指導者のうち」 **副**across the country],「その国にわたって」 **主**60 percent **動**were found to be **補・名**volunteers.「60%はボランティアとわかった」

*1：コンマの前は〈範囲〉を表す前置詞ofに導かれた副詞句。across the countryも場所を表す副詞句。

語句 instructor [ɪnstɪktər | インストラクタ] **名**「指導者」⇒instruction [ɪnstɪkʃən | インストラクション] **名**「指導」⇒instruct [ɪnstɪkt | インストラクト] **動**「指導する」、volunteer [vɒləntɪər | ヴァランティア] **名**「ボランティア」

3 That is to say, the Japanese language education system for adult learners excluding foreign students is supported by local volunteers.

構造 **副**^{*1}[That is to say],「つまり」 **主**[the Japanese language education system for adult learners「大人の学習者のための日本語教育システムは」 **excluding foreign students**]「外国人学生を除いた」 **動**is supported **副**by local volunteers.「地元のボランティアによって支援される」

*1：that is to say「つまり、すなわち」は接続詞の役割をする副詞（〈接続副詞〉という）。単にthat is とすることも多い。そのまま覚えるとよい。

語句 excluding [ɪksklúːdɪŋ | イクスクルーディング] **前**「～を除いて」

5 ① At the same time, it cannot be said that the support system for children is any better.

構造 **副**At the same time,「同時に」 **形主**^{*1}it **動**cannot be said「～はまったく言えない」 **真主**[接that **主**the support system for children **動**is **補・形**any better].「子どものための支援システムがよりよいということ」

*1：形式主語のitで、真主語はthat節（名詞節）。形式主語の構文は、長くなる主語をいったんitで代用して文を作り、後でそのitの内容をthat節（名詞節）やto不定詞（名詞的用法）で説明する形。**暗例**It is impossible to travel faster than light.「光よりも速く進むことは不可能だ。」

語句 at the same time「同時に」、not ～ any「まったく～ない」

2 The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology reported that there were 44,000 students that needed special Japanese language instruction in the 2016 academic year — 1.7 times the number 10 years